

陸平通信

OKADAIRA

2014年3月1日発行

編集・発行/茨城県稲敷郡美浦村土浦2359

美浦村文化財センター（陸平研究所）

第Ⅱ期 78号

☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471

Eメール:bunkazai@vill.miho.lg.jp



秋から冬にかけて文化財センターでは歴史や民俗、陸平の自然を通して文化財に親しんでもらう体験をおこないました。今後も広報みほや陸平通信、村ホームページでご案内していきますので、どうぞお気軽にご参加下さい。

昔のくらしにふれる

陸平の自然をたのしむ



つるかご作り



味噌を作ってみよう



ジェルキャンドル

貝殻を入れてジェルキャンドルを作りました。



御新巻巻落語

落語を聞いて笑って楽しいひととき。



古文書入門講座

はじめて古文書にチャレンジ!



木の文藝工

陸平は自然がいっぱい。かわいい作品ができました。



ミニ門松作り

手作りの門松で新年を迎えました。



さき織りでマイバックを作ろう!

さき織りの布で自分だけのバッグを作ります。



村内

最新発掘調査成果速報!

～木原・御茶園西(おさえんにし)遺跡～

昨年の8月から11月にかけて、木原工業専用地域の基盤整備事業の一環として、御茶園西遺跡の発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代後期(約4,000年前)の竪穴住居跡3軒、貯蔵穴3基、小さな貝塚13ヶ所、古墳時代(約1,500年前)の竪穴住居跡3軒などがみつかっています。

大量の縄文土器が。調査も手間がかかり大変でした。



埋まっていた浅い谷の斜面から縄文土器が大量に出土。縄文人が住居の近くに捨てたもの?



土器がそのままつぶれた状態でも出土。

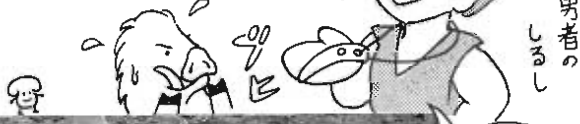


マイホーム♡

縄文時代の竪穴住居跡壁際に柱の穴がめぐり、真中に炉があります。



他にもいろいろ発見!



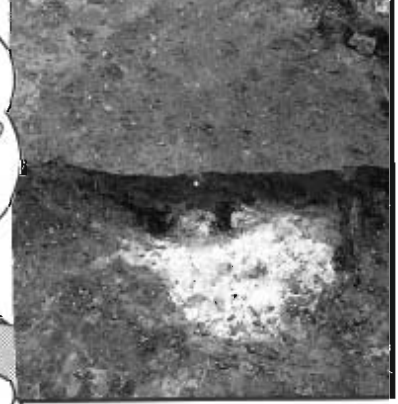
勇者のしるし

イノシシの牙(きば)でつくった装身具。



貝の腕車輪をまねして焼物でつくられたブレスレット。

住居の炉跡には数千年前の灰が残っていました。灰の中には鳥?の骨も。焼鳥食べたのかな～。



土器が埋められています。

常陸国風土記

奈良時代にまとめられた地方誌 3

信太郡の条の中には美浦村にかかわりのある部分があります。

「郡北十里、碓井、古老曰、大足日子天皇、幸ニ浮嶋之帳宮、無ニ水供御、即遣ニト者一訪占所々穿、今存ニ雄栗之村」

郡衙から北へ十里のところに碓井がある。古老のいうことには大足日子の天皇（景行天皇）が浮島の仮の御座所に行幸なさった時に、お飲みになる水がなかった。そこでトイをする者にトわせてあちらこちら井戸をお掘らせになったという。（その井戸は）今でも雄栗の村に存っている。



景行天皇碑（稲敷市）

郡衙は郡の役所です。信太郡の役所は明確にはわかっていません。ここに出てくる雄栗の村は安中地区の陸平貝塚周辺で、雄栗の名は浮島（稲敷市）へ水を送ったことにちなんでいるとも伝えられています。陸平貝塚周辺にはぶくぶく水と呼ばれる湧水が今もあります。景行天皇が行幸されたとされる浮島には「景行天皇在所の碑」があります。



陸平のぶくぶく水

「古老曰、天地權輿、草木言語之時、自レ天降來神、名称ニ普都大神、巡ニ行葦原中津之國、和ニ平山河荒梗之類、大神、化道已畢、心存レ帰レ天、即時、隨身器仗、甲戈楯劍、及所レ執玉珪、悉皆脱屣、留ニ置茲地、即乘ニ白雲、還ニ昇蒼天」

古老のいうことには——天地のはじめ、まだ草木がものを言うことができた時、天から降つて来られた神があつた。御名を普都大神といい、葦原中津國を巡行されて、山河の荒ぶる神々たちをやわらげ平定された。大神は平定し終えて、天に帰ろうとお思いになり、身につけておられた武具の甲・戈・楯・劍、そして手に持っておられた玉類までもすっかり脱ぎ捨ててこの地に置いてそのまま白雲に乗って天に帰り昇っていかれた——と。

この記述は楯縫神社に関係しており、受領の「八ヶ山」（現在東洋建設があるところ）は、「ハツカ山」が「フツガ山」の転訛であり普都大神昇天の地ではないかともいわれています。普都大神昇天に關しては竹来（阿見町）の阿彌神社という説もあります。



楯縫神社

（次号へ続く）

文化財センター展示のご案内

現在展示している
内容をご紹介します

現在の展示は陸平貝塚と村指定文化財を紹介した内容です。

陸平貝塚の展示では、明治12年に日本人だけで初めて陸平貝塚を調査した佐々木忠二郎^{ちゅうじろう}と飯島魁^{いさお}の調査はじめ、陸平縄文人の暮らし、当時の人々が使った道具(土器や石器、貝や骨で作った製品)や食べたもの(貝や魚・動物の骨など)等からわかってきていることを、近年の発掘調査で出土した資料も加えてご紹介しています。

村指定文化財は信太入子ノ台遺跡出土の蔵骨器^{くらぼつぎ}と木原城址から出土した観世音菩薩立像を展示しています。蔵骨器は現在の「骨つぼ」にあたります。時期は9世紀で、日本で陶磁器の生産が行われはじめた愛知県の猿投窯^{さなげよう}という窯で焼かれました。蔵骨器の蓋に「大伴」という文字が墨で書かれていたものもありました。なぜ美浦村でそのような蔵骨器が出土したのか明確にはわかっていません。古代(奈良時代や平安時代)の美浦村がどのような村であったかということがこの蔵骨器について知る手がかりになります。

戦国時代の城跡である木原城址出土の観世音菩薩立像は鎌倉時代に作られたとても小さな仏像で、なんと十一面観音です。お守りとして携帯していたと考えられますがどのような人が持っていたものなのかはわかっていません。

展示室は午前9時～午後5時まで見学できます。休館日は月曜日、祝日。土日は案内ボランティアがご案内しており展示品についての説明もおこなっています(不定期)。どうぞお気軽にご来館下さい。



陸平貝塚も皆で調べよう講座 第Ⅴ期 講座生募集!

みんなで陸平貝塚
の謎を探ろう!!

国史跡の縄文遺跡「陸平貝塚」のより良い保存と活用を推進するために、住民参加による確認調査を平成20年度からおこなっています。今年も夏に2週間ほど発掘調査を実施する予定です。「陸平貝塚を皆で調べよう講座」は、陸平貝塚の調査にボランティアとして参加を希望される方、もしくは貝塚や考古学に興味がある方を対象とした内容です。発掘調査や出土品の分析を通して考古学の楽しさを学びながら、地域の文化遺産“陸平貝塚”の謎を明らかにしていきます。どうぞふるってご応募ください。

- ◇講座期間 平成26年5月～平成28年3月
(予定)
- ◇場 所 陸平貝塚公園
(文化財センター、陸平貝塚)
- ◇申込締切 4月20日(日)
- ◇申込・問合せ 文化財センター ☎886-0291
※月曜休館



平成24年度の発掘調査の様子